

特集3

鶴窓会新潟県支部が発足

新潟県支部長

加茂田俊則

(昭和48年林学科卒)

支部長

加茂田俊則

(昭和48年林学科卒)

齊藤孝夫

副支部長

齊藤孝夫

小島 康彦

同 同

昭和54年農業工学科卒

中俣 昭雄

駒形信一

昭和56年園芸工学科卒

阿部 徳文

昭和56年農学科卒

支部事務局長

昭和53年農学科卒

同 同

支部事務局次長

昭和56年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島 康彦

同 同

支部事務局長

昭和53年農学科卒

駒形信一

昭和56年農学科卒

阿部 徳文

小島

着任のご挨拶



バイオサイエンスコース
准教授 鈴木 拓史

2019年4月1日より農学部食料生命環境学科バイオサイエンスコースの准教授として着任いたしました鈴木拓史(すずきたくじ)と申します。誌面でのご挨拶となります。山形大学農学部鶴窓会の皆様にご挨拶申し上げます。

以前は、同大学の地域教育文化部(小白川キャンパス)に勤務しており、「栄養」を軸とした専門授業を担当しておりました。2019年4月からの農学部のコース再編に伴い、食品栄養分野を担当する教員として、バイオサイエンスコースに着任いたしました。農学の学問分野は幅広く、「食べもの」に関連する分野だけでも、食品の生産や製造などの口

に入るまでの分野、そして体の中に入つてからの食品成分の機能性に関連する分野など、さまざまな分野で構成されています。その中で私が専門にしているのは、「栄養生物学」という専門分野です。とくに、口から摂取した食物(栄養素)を体内に吸収する要である「小腸機能」を最も得意としています。

「第二の脳」とも呼ばれる消化管は、脳機能と密接な関わりがあり、消化管から分泌される消化液や消化管の運動(食物を攪拌したり、消化管内を移動させたりする運動)は、然るべきタイミングで活性化されます。そのタイミングを生み出すのが、口から摂取された食物の刺激です。栄養素や食品成分の種類によって影響の大小は異なりますが、消化管を介した食事由來の神経性刺激は、脳を含む全体の生理機能に影響を与える大切な刺激となります。小腸の形態や機能もその刺激によって支えられています。つまり、口から物を食べることが我々の健康的な基盤となっているということです。

そこで、農学分野に興味を持つ入学した学生たちに、体の中に入つてから食べ物の重要性について、さまざまな視点から学ぶことができます。小腸の形態や機能もその刺激によって支えられています。つまり、口から物を食べることが我々の健康的な基盤となっているということです。

そこで、農学分野に興味を持つ入学した学生たちに、体の中に入つてから食べ物の重要性について、さまざまな視点から学ぶことができます。小腸の形態や機能もその刺激によって支えられています。つまり、口から物を食べることが我々の健康的な基盤となっているということです。

そこで、農学分野に興味を持つ入学した学生たちに、体の中に

員として、日々、研鑽を積み、広い見識を持ち合わせた人材を世の中に輩出できるよう精進してまいりたいと存します。また、研究活動や地域貢献活動を通して、地域の方々の健康を「食べものによつて支える活動」にも注力したいと考えています。まだ経験が浅い身ではありますが、皆様の指導・ご協力を賜りながら、活動の幅を広げて行ければと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

第8回「山形大学ビーチサッカー大会」の開催

校友会理事

堀口 健一
(平成2年農学科卒
平成4年農学研究科修了)



学生たちのいきいきとした楽しそうな雰囲気、いいものです。その雰囲気を文章で表現することは難しく、ましてや私のような文章が下手なものが書くのでは皆様へ伝わりません。ということでお写真で感じ取ってもらつた方がよいと判断しました。写真から学生たちの活気を感じてもらえるはずです。本大会の概要是次のとおりです。開学記念日の10月15日、米沢、小白川、鶴岡の各キャンパスから9チームが集まり、校友会の支援事業として農学部(体育館)で開催されました。なお、題目にビーチサッカーとあるので、なぜ?と思われた方へ。前回までは確かにビーチサッカーフィールドでの大会でしたが、今年の6月に発生した山形県沖地震の余震等が心配されることから、運営に携わっている学生たちとも相談し、フットサル大会の開催となりました。最後に、鶴岡キャンパスマス事務部の方々の協力により本大会を行うことができました。

心より感謝申し上げます。



令和元年度 山形大学農学部学生研究支援事業について

令和元年度 山形大学農学部学生研究支援事業採択課題

(申請8件、採択3件)



- 1 研究実施学生 小原 瑞歩(食料生命環境学科 食品・応用生命科学コース)
研究課題「マウス卵巣の原始卵胞形成におけるコルチゾール経路の役割」
- 2 研究実施学生 菊田 将太郎(食料生命環境学科 水土環境科学コース)
研究課題「画像による新たな河川環境評価方法の検討」
- 3 研究実施学生 佐野 舜一(食料生命環境学科 植物機能開発学コース)
研究課題「穀物の品質安定化を目指した穂発芽耐性遺伝子座の単離と機能解明」

平成30年度 鶴窓会会長賞受賞者

食料生命環境学科 安全農産物生産学コース4年 桑原 一樹	食料生命環境学科 水土環境科学コース4年 濵木 理央
食料生命環境学科 食農環境マネジメント学コース4年 阿部 大樹	大学院農学研究科 生物生産学専攻2年 蔡 韶
食料生命環境学科 食品・応用生命科学コース4年 石川 紗野	大学院農学研究科 生物資源学専攻2年 鈴木 拓馬
食料生命環境学科 植物機能開発学コース4年 蓮實 奏子	大学院農学研究科 生物環境学専攻2年 Tran Dahn Lanh